

# 時代が求める「改革」意識

モノの豊かさから心の豊かさへ

## 今の日本に必要なのは 子ども達の心を育てる教育です

徳田ひとみ ブータン王国名誉総領事

今の日本は、政治、経済、教育、宗教、どの分野にも、言い知れぬ不満感が鬱積<sup>うつせき</sup>している。この現状を打破するためにも、大きな意識改革が求められている。平成24年5月13日（日）、人間性復活運動本部・荏原支所の主催で「第10回明るい明日を考える集い」（於・渋谷区文化総合センター大和田）が開催された。「『幸せの国』ブータン王国から学ぶ」とのテーマで行なわれた講演とディスカッションの中から、今後の日本にとって必要な意識改革のヒントが見えてきた。



### GNHを提唱した 第4代ブータン国王

昨年、ブータンの国王夫妻が来日した際は、日本の皆さまに大変歓迎して頂き、ありがとうございました。ブータンという国を知る方は少なく、**「ブータン？」**なんて言う人もいます。

人口は70万人弱で、ヒマラヤ山脈の麓<sup>ふもと</sup>にあり、面積は九州くらいの大さですが、最近是中国の圧力を受けて、やや小さくなってしまいました。ブータンの国土は海拔2000mの地域から7200mの地域まで様々で、首都ティンプーで海拔は2300mあり、調子が悪いと高山病になつてしまいます。

GNH（国民総幸福量）という言葉で世界中に知られるようになりました。

まず、現国王のお父様である第4代国王が大変立派な方でして、GNHを提唱された方でもあるので、簡単にご紹介致します。

16歳でイギリス留学中に、3代目の国王が急逝されたため、帰国し王位を継承しました。そしてインドを表敬訪問した際、「あなたはどのような理念で、ブータンの王としてこれからやってくつもりですか？」と尋ねられ、「私は国民全部の幸せを祈ります」と仰<sup>おっしゃ</sup>りました。これがGNH誕生のきっかけとなりました。

昭和天皇御崩御の際、世界各国の元首がお土産を持って弔問にいらっしゃいました。そのお返しに日本側は各国のリクエストを聞くわけです。例えば、自分の国に「ダムを作ってください」とか「橋を作ってください」など、自分の国の利益になることを、日本に願<sup>ねが</sup>いするので。しかし、4代国王は、求められたリクエストに何も書かず白紙で提出されたそうです。葬儀の際は、小雨の降る中、昭和天皇のお車が見えなくなるまでずっと立っておられ、マスコミからは「なんと素晴らしく、素敵な国王だろう」と賞賛されました。

為政者を決める際には、これまで

の王政ではなくて、国民一人ひとりの投票によって決めるべきだと自ら呼びかけ、民主主義を取り入れられました。それにあたっては、約2年間、国民に投票の仕方を練習させ、幸せになるための政治参加を教育されました。

そのような国王の後を継いで、第5代国王が誕生しました。普通就任すると外遊に出られるのですが、インド以外は一切行かないで、国民がどういふところに住んで、どんな物を食べているのか、国中をずっと歩きながら見て廻られたのです。

学校では子ども達に「君たちに何かあったら、僕が守ってあげるよ」と仰ったというのです。私はとても感動してしまいました。このような環境で育った子ども達は、きつと王様のことを尊敬するし、国のために何かやって行きたいと思うだろうなと感じました。

国王と国民がとても密接な関係にあるのですね。それでいて、国民にとって国王は、日本のジャニーズや吉本興業を全部合わせても敵わない

ほどの人気ぶりだそうです。

### 日本が失くした良さを 持ち続けている国

ブータン人の顔は日本人ととても似ています。人類学者の中には日本とルーツが同じだと言う人もいます。また、人柄もよく似ています。日本は資本主義の元、戦後の経済成長によりモノは豊かになりましたが、その代償として、大事なものを無くしてしまった感があります。ブータンに行くと、昔の日本の良さがそのまま生きていて、タイムスリップした気分になります。

私がいつもブータンに行って感じることは、農村の貧しい方から官公庁の役人さんに至るまで皆さん全てに、卑しく私欲に満ちた顔の人が一人もいないのです。自分の中に自分を律するものがあるのでしょうか。今の行ないが来世に繋がるという宗教的情操があるそうです。

こんなエピソードがあります。ある方がブータンでレンタカーを借りて、段差のところで動かなくなっ

てしまったのです。そうすると、近くにいた人達が何も言わずに寄ってきて、近くにあった小石で段差を埋めて、何も言わずに去って行ったというのです。

誰かが「やろう」と言い出したわけではなく、何も言わないのに誰ともなく集まってきて、困っている人を助けるといことが当たり前なわけですね。

またある時は、私の知り合いが、素敵な家具になるような木を譲ってほしいと申し入れたそうですが、「環境によくないから」との理由から断られたそうです。つまり外貨を稼ぐよりも自分の国の緑化を重視する国なのです。

実はブータンの主流語であるゾンガ語には「幸福」という概念がないのです。そのため、GNHの調査というのは大変で、高校生以上をみんな一時的に公務員にして、口当を払って、遠くの出奥まで調査に行かれます。「最近家畜は育っていますか?」「家族に死者はいませんか?」「病気はないですか?」などの項目

も盗みはしないとか、いじわるをしないということが徹底されています。日本の子どもはどうでしょう?

知識は確かに多いかもしれませんが、ブータンの子達のように目を輝かせているでしょうか?

中高一貫の学校に入ればリートコースから外されるとか、意味のない価値観に振り廻されています。一流大学を出れば幸せが保障されるでしょうか? 私達はそんなことはないということを知っているは



ずです。こういったことを、我々大人が声を上げて行かなければいけません。

子ども達の、人としての品性や人格を植え付けるような教育を行かなければいけません。一番残念なことは、せっかく生まれて来た子ども達が幸せでないことが残念でなりません。

今はモノが全部満たされて、何の感動もありません。幸い、私達の世代は貧しい経験をしているので、新

で調査をして行った結果97%の人が幸福であるという結果になるのです。

でも、決して経済的に豊かかというところ、そうでもありません。ブータンは医療費、学費は国持ちですが、制服代は個人持ちなので、その制服が買えないために学校に行けず、就学率が下がっている現状があります。

また山岳地帯に住んでいる子などは通学に片道3、4時間掛かるので、靴があつという間に擦り切れます。私が現地の子ども達に「一番欲しいものを尋ねると、「靴です」という答えが返ってきました。

### モノに満たされた代わりに 失くしてしまったモノ

日本人は今の生活を振り返り、もっと幸せにならなければいけないと痛感しています。そのために、私は教育という観点が最も重要だと考えています。

ブータンでは道徳教育が取り入れられています。また仏教の教えが根付いているので、誰も見ていなくて幹線や外国の便利な製品を初めて見た時は感動したものです。ですが、今はパソコンやゲームなど何でも揃っています。

最近の子ども達は遊ぶために集まって、それぞれが自分のゲーム機と向き合っているため会話がありませんね。わざわざ集まる必要がありません。そんな子ども達が可哀想です。体を動かして遊ぶ中から、痛かったり、痒かったりを経験して、みんな一緒に何かを食べて、「美味しいね」と言うだけでもよいと思うのです。

日本はモノが溢れ過ぎて、親も子どもにモノを買い与えることが親の務めと勘違いして、大事なことを教えることを忘れてしまっている気がします。そのことを今の若いお母さん方に教えてあげて、何かに気付いてもらいたいと思います。

それはおせっかいではありません。何故かというところ、何かに気付くことによってその方達が幸せになるからです。そして、力になれた私達も幸せになれるからです。

### 子ども達に愛している 伝えることが始まり

昨年、ブータン国王が来日した際、国会で演説（ブータン王国名誉総領事館ホームページに全文掲載されています）をなさいました。これは大震災を経験した私達にとって本当に励ましでした。でも正直恥しい面も感じました。

日本はアジアをリードしてきた国で、気品と精神性の高さをとても評価して下さっているのですが、嬉しさと同時に、私達はとても大事なことを忘れていてはないかと反省しました。

今の日本の子ども達を救うには、ブータンでなされている道徳教育のようなものを取り入れて、人間性を回復させるような動きを、国に働きかけて行かなければいけないと思います。

是非、今口集まっておられる皆さま方は、それぞれのお立場で、子ども達の幸せのために、まず子ども達を愛していることを伝えてあげてく

ださい。

褒めてあげると子どもは喜びます。友達に手を差し伸べている子がいれば「いい子だね」と言ってあげてください。そういうことを私達がしなければいけません。

今日この帰り道で、ランドセルを背負った子どもがいたら、是非「頑張ってるね」「お勉強してるね」「お友達と仲良くね」と声を掛けてあげてください。

私には孫がいるのですが、中学受験をしたくないと言って公園で自転車乗り廻して遊んでいますけれど、「あなたはせっかく元気で、お勉強すればちゃんと分かる頭がついているんだから、一所懸命あなたなりに考えて、世界平和に貢献するのよ」と言うのです。びっくりしますでしょ？（笑）

「町内を歩いていておばあさんに会ったら、『おはよう』とか言っておあげると、そのおばあさんは一口嬉しいわよ」とか「お友達が困っていたら助けてあげるとその子は嬉しいじゃない。そんな子がいっぱいにな

## 「明るい明日を考える集い パネルディスカッション」 他人の幸せを願う心が 「分かち合い」の社会を創ります

### 新自由主義の発想が いびつな経済を生んだ原因

高橋 ブータンでは、他者との関わり合いが非常に豊かな印象を受けましたが、その辺りをもう少しお話し下さいませうか。

徳田 ブータンはご存知のように農業国ですが、家族は勿論、地域の人々と皆で助け合って、こちらの畑が終わったら次はあちらの畑、という具合に同じ地域に住んでいる人々の協力態勢がとても密接なのです。

「家族」と「その他」という区切りが日本より薄くて、同じ地域の人々は家族と同じくらいの愛情を持って生活しています。

高橋 世界の経済がどうにも行か

なくなってきたり、人は更に便利で豊かなモノを求めている動きがあります。モノの発展も大事ですが、それよりも大事な発想があるのではないかとという視点で、相馬さんにお話をお願いします。

相馬 今、世界の先進国はいずれも、財政の赤字をどう補填するかを考える必要があります。そうすると、戦後我々が経験したような経済発展は、到底あり得ない話で、逆に、如何に我慢するかという時代がやってくると思います。

どうやって我慢して行くかということですが、互いに相手を思いやりながら、低成長、あるいはマイナス成長を我慢して行く仕組み作りが必要になってきます。

なったら世界中が平和になるんだから、あなた、世界平和に貢献してね」と、そんなことを言っています。人間は決してモノや便利さで幸せにはなりません。それは皆さんも経験なさっていることだと思います。私の願いは、子どもの教育を、知識偏重ではなくて、心を育てるような教育にして行くことです。そうでないと、日本は良い国にはなって行かないと思います。（基調講演より）



左・東京都立園芸高等学校教諭(農学博士)の高橋和彦氏(コーディネーター)、中央・徳田ひとみ氏、右・相馬茂二郎氏

を、アメリカがどんどん進めた結果、実物経済をねじ曲げる、実に歪（いびつ）な形になっていきます。今ニューヨークなどで職を持たない若者がデモをやったりしていますが、金融の自由化を推し進めると、富の偏在が著しく起こってきます。

金融というのは、実物経済をサポートするべきものだと私は考えているのですが、今は逆に、金融が実物経済を振り廻している状況です。全世界の金融はインターネットによって繋がっています。巨額のお金が世界のマーケットを走り廻っていて、一歩間違えると、巨額の赤字を出して、金融恐慌に陥ってしまう。そういう非常に脆い状況になっています。

経済運営の哲学が崩れ、簡単に言うが強欲で貪（もは）るような考え方が主流になっていきます。こういう問題をどうしたら解決できるのかを、私は長年考えてきました。

それにはやはり、自分だけでなく、他者とともに成果を上げて、それをもに分け合って行くという「利他

な形態を採って行くことが必要だと思います

### 社会を変えるためには豊かな人間関係が必要

高橋 ワークシェアリングも大事だと思いますが、もっと我々の身近なところで実践して行ける方法はないものでしょうか。

相馬 これは私自身の反省にもなるのですが、バブルの時代などは特に、お金の遣い方や、日常の生活の中でも、非常に無駄の多い生活をしておりました。モノを節約して、大事にモノを使うという考えが大事だと思います。

昨今、環境問題にどう取り組むかという中からも注目されていますが、これまでは、大量の資源を使って、大量に生産し、大量に投棄するという極めて無駄な経済状態です。そういった状態を批判しつつ、私も最近では電気をマメに消すなど、些細なことではありますが、身の回りの無駄をなるべく少なくするようにしています。

の精神」を元にした仕組みにしなければ、理想的な経済にはならないと思います。

### 人と比べるのではなく自分の良さを伸ばす

高橋 先ほど徳田さんのお話の中に、社会体制よりも人の心が良い社会を作るのではというお話がありました。その部分については如何でしょうか。

徳田 人間というのは、相対的に優劣をつけたがるのです。人の悪い部分を見つけて、自分が優れていると満足したいという部分が人にはあることに気付いたのです。

「あいつは勉強はできるけど運動ができないんだよ」と言う子がいるのですが「勉強ができるというのは大変なことよ。あなたには何ができるの？ どうして素直に〇〇君は頭がいいなって言えないの？」と私は怒ってきたのです。とにかく相手を認めることが必要だと思います。

相手が劣っていて、自分のほうが勝っているというような小さなこと

高橋 人は人間関係が豊かになって初めて幸せになるのではないかと思うのですが、社会を変えて行くためには、先ず人と人との関わり合いが変わって行かないと変わらないと思います。稀薄になっている今の人間関係を豊かにするにはどこから始めればよいのか？ 徳田さん如何でしょうか。

徳田 やはり小さい頃から人との関わり合いをたくさん持つような時間を意識的に作って行けばよいと思います。

修学旅行で寺院巡りをするのもよいですが、仲間とどこかにボランティア活動に行つて、自分自身の存在が他の人に喜んでもらえたり認めてもらえるような、そういう感動を一人ひとりが覚えるような体験をさせることが大事だと思います。

今はみんながひとりぼっちです。「自分はここにいないくても何も変わらない」と思ったり、「誰も声を掛けてくれない」と思っている子も多くなります。やはり人は人との関わり合いの中で自分を見つめます。ひと

ではなく、自分自身に与えられた自分だけの能力を見つめればよいのです。他の子が足が速ければ「あの子は速いね」と言える子どもであって欲しいのです。他者の欠点を見つけていい気分になっているような悲しい生き方を子ども達にして欲しくないので、私もしたくありません。

高橋 先ほど、経済運営の哲学を、貪りから分かち合いに変えて行かなければいけないというお話でしたが、日常生活の中から変えて行けることはありますか？

相馬 一つは労働時間の分かち合いというものがあると思います。今の日本は、一部の優秀な人が長時間労働をして、高い報酬を得ています。一方では、低賃金の人達は働きたくても働けない状態にあります。

たくさん収入がある人は、働く時間を少なくして、働く機会の少ない人にそれを分け与える。例えば1日8時間以上は働かない。そして、それ以上の労働が必要になった場合は、他の人にその労働を分け与える。いわゆるワークシェアリングのよう

りぼっちだと自分をどう見つめてよいか分かりません。自殺は人間関係が煩わしくて悩んで死ぬのではなくて、孤独で人間同士が上手く行かないから死んでしまう人が多いですね。

少し逸れますが、遠藤周作のお母さんの話です。遠藤周作はいたずらっ子で、お母さんはしょっちゅう学校の校長室に呼び出されて行ったそうです。とても体の小さいお母さんでいつも「すいません。すいません」と言つて帰るそうですが、校長室から出る時に振り返って、「でも私は周作を信じています」と言うのだそうです。だから「信じてます母ちゃん」というあだ名がついたそうです。母親が自分の子どもを良い子だと信じる、親がそれだけの気持を持っていれば子はちゃんと育つのです。

自分を少し我慢して、人が幸せになれるように、それぞれが自分の世界で何か人のために貢献できればもっと良い社会になるはずですよ。